

大小かかわらず様々な「感動」がスポーツにはある。それが発展していき地域を活性化したり、国を大きく動かしたりするのかもしません。大阪マラソンをそういう本質的などころでメジャ－にしていきたい。



大阪マラソン組織委員会事務局  
競技運営部競技運営課 課長補佐

# 林 昌之

写真／田中聖成

——まず、都市型マラソンについてお聞きしたいのですが、日本だと代表的な地域はどこになりますか？

都市型マラソンでは、東京・大阪・神戸・京都・名古屋があります。名古屋はフルマラソンとしては女子だけですが、ハーフは男子も走れます、10kmもあります。大会前日は親子のファミリーマラソンもあります。ランナーの合計人数としては国内で一番大きい大会だと言われていますね。都市型マラソンの魅力は、普段、車が走行している道路を交通規制をかけて、走れるということだと思います。運営に携わることで、どのようにコースが決まり、どのように大会がつくられていくのかということを分かってきました。

——昨年11月に開催された第8回大阪マラソンの参加人数はどれぐらいだったんでしょうか？

ランナーは3万2000人。3万7500人(2019年大会)の東京マラソンに次いで日本では2番目の規模ですね。年齢層は40代50代が多く、また男性の方が多いですが、マラソンブームということもあり、最近は女性の参加者も増え、大会が華やかになってきました。先ほどの名古屋ウィメンズマラソンではゴールの直前に身だしなみを整えてフィニッシュしようとしているところです。リフレッシュステーションがあり、マイクが直せるようになっています。42kmを走るのは大変なことですけど、いい笑顔でフィニッシュしようとすることだと思います。また、フィニッシュ後すぐに記念撮影ができるようになっています。これは女性ランナーのマラソンならではの素晴らしいおもてなしだと思います。大阪マラソンではフィニッシュ後の女性更衣室にはパウダールームを完備したりしています。そういう取り組みをすることで、女性ランナーが多くなればと思います。

## 世界のメジャ－と言われるマラソンに我々大阪も肩を並べるタイミングが今だと考え、セントラルフィニッシュをを目指すことになりました。

——このタイミングで新しいコースにしようというのはなぜでしょう？

今、世界のメジャ－マラソンが「セントラルフィニッシュ」なんですね。既にセントラルフィニッシュを導入している東京マラソンもシックスメジャ－といふメジャ－マラソンの中に入っています。大阪マラソンも今まで8回開催し積み上げてきたノウハウがあります。これは大変なことですけど、いい笑顔でフィニッシュしようとすることだと思います。また、フィニッシュ後すぐに記念撮影ができるようになっています。これは女性ランナーのマラソンならではの素晴らしいおもてなしだと思います。大阪マラソンではフィニッシュ後の女性更衣室にはパウダールームを完備したりしています。そういう取り組みをすることで、女性ランナーが多くなればと思います。

——林さんは大阪マラソン組織委員会事務局にお勤めになられていますが、具体的にはどのようなお仕事をされているのですか？

僕は競技運営部に所属しています。大阪府警本部、沿道警察署、大阪市消防局、大阪陸上協会との協議や調整が仕事の中心で、他に給水所や収容閑門バスの留め置き場所の依頼、コースのチェック等もしています。府警本部だけでも年間10回以上協議や調整で伺っています。それぞれの協議や調整にかなりの時

間を費やしますので、1年間大阪マラソンのことだけをやっています。

昨年11月25日に第8回大阪マラソンを開催しました。その当日は『終わつた』とホントできるんですが、翌日から第9回大会の準備が始まります。第9回大会からは新コースになります。その準備を既に2017年の夏から始めていたこともあります。その準備を既に2017年の夏から始めていたこともあって、ちょっとバタバタが続いていましたね。

新コースを設定するにあたって、まずはセントラルフィニッシュをどこにするか？スタート時に集まるのは、ほぼ3万2000人のランナーだけだと思いますが、フィニッシュでは、家族や友人等が応援や迎えに来られるので4万人以上になるんです。それだけの人数を受け入れ、複数の公共交通機関がある候補地を大阪市内で見つけるため、あちこちと現地口ケハンをしました。その中で大阪の中心地であり、大阪を代表する大阪城公園が相応しいと思いました。

解説者のではないか。そういうことを総合的にみて、メジャ－と言われるマラソンに我々大阪も肩を並べるタイミングが今だと考へ、大阪マラソンも第9回からセントラルフィニッシュでの新コースを目指すようになりました。セントラルフィニッシュする新コースの大坂マラソンを通じて、大阪という都市をもっと世界にアピールできればと思います。

次に、どのようにコースラインを引くかです。都市型マラソンを感じながら、魅力ある大阪のランドマークをめぐるコースラインを考える。そこで大阪市内の交通の流れを確保する必要があります。まずは地図で調べ、現地口ケハンをして、コース案を作成し、府警本部と相談するということをやりましたね。コース沿

それと沿道対策もしています。スタート直後は先頭ランナーから最終ランナーの距離が離れていたため交通の規制する時間は短くですみます。しかし、スタートして10kmくらいになると、その距離がだんだん長くなつてくため、交通規制の時間が長くなり、沿道の方の生活に長時間の影響が出づきます。これまでのフィニッシュは「南港」にあるインテックス大阪で、コースの後半は、工場が多くあつたため、「コース沿道の方々の生活への影響は少なかつたかと思います。しかし、セントラルフィニッシュを考えると、住居も多く、「コース沿道の方々の生活に大きく影響を与えるため、制限時間の変更やう回路の確保、「コースの横断対策を考えないといけません。他にも、収容閑門バスの停留所や救護所、仮設トイレの設置場所等を居住エリアで見つけることが難しく、何度もコース沿道を歩き候補地をみつけているところです。

——世界的なメジャーマラソンを目標とするということは、国際的なイベントにならざるを得ないですね。

「スポーツツーリズム」という言葉を数年前からよく耳にするようになりましたよね。インバウンドで大阪にも外国の方がたくさん来られているので、大阪マラソンへのエントリーも年々増えています。

それによつて運営サイドでも、外国人ランナーに対応が出来るように多言語表示の案内などを増やしています。そういう今までにならない工夫が必要になります。

今年はラグビーのW杯がありますし、東京オリンピック・パラリンピックもやってきますし、国際的なスポーツイベントがどんどん日本にやってくるので、セントラルフィニッシュする大阪マラソンもその仲間入りをしようと気持ちでやつていていますね。

## ランナーとして「参加する」面白さがあると思います。 それに加えて「支える」側として楽しんでいただけの大坂マラソンになればと思っています。

——大阪マラソンの良さや面白さなどのはどのような感じですか？

そうですね。競技とは直接的ではないですが、大阪マラソンの良さとしてあげて頂くことが多いのは、独特的の応援があるということですね。単に「頑張れー」と言うだけではなく、自作の吹き出しパネルや看板を持って応援される方が沿道にいらっしゃるんですよ。「足痛い」「氣のせいやー」とか書いてあつたり(笑)。「走れへんかったら怒るでおばちゃんがー」とかね(笑)。メディアでもよく取り上げられる「大阪のおばちゃん文化」のようなものを全面に出して沿道から応援してくださるんです。大阪らしさがあつて、凄くあたたかいとランナーから評判を頂いています。

もう一つ、大阪の各区を通つて行きますので、その地域的な応援や催し物だつたり、美味しいものを出してもいいとか、そういうことがもっと増えていけば嬉しいですね。現「コースでは、大阪市の商店会組合が約30km地点において、「まじめエイド」という給食を自主的にやつてもらつていて、お寿司、たこ焼き、冷やしきゅうり、梅干し、ブドウなど、色々なものを給食として提供して頂いています。それを楽しみに来られるランナーさん

ももちろんランナーとして「参加する」面白さがあると思いますし、「ランナーを「応援する」という面白さもあります。それに加えて、ボランティアだけでなく「支える」側として楽しんでいただける大阪マラソンになればと思ってます。

参加するランナー自身も42kmの中で、「競争」から「共走」に変わり、お互い支えあって完走を目指しているのだと思います。とともに良い表情をされていました。素敵ですね。

## レース途中では苦痛の表情を浮かべていたランナーが、達成感に満ち溢れた素晴らしい笑顔でフィニッシュする。この仕事をしていて良かつたと思える瞬間です。

——大阪マラソンの運営を通じて、林さんが感じておられる「スポーツの力」とは？

スポーツの力というのは「感動」なのかなと。その感動はひょとしたら人生も変えるかもしれない。そんなきっかけを与えてくれる感動がスポーツにはあるなと思います。

それは先程もお話しのように、競技をする方だけではなく、見る方や支える方々もそれは感じると思うんです。

以前僕の知人が奥さんを連れて大阪マラソンを見に行つたらしいんですよ。はじめ奥さんはあまり興味がなかつたようですが、頑張つていてるランナーに「ヨコレートをあげよう」ということになつたらしく。だんだん応援が楽しくなってきたそいで、持つてきていたヨコレートがすぐに無くなつて。そしたら奥さんは、「もっと渡してあげたいからはよ買つてきこよー」と言つたそいで。ところが、歩道は人でいっぱい歩きにくく。向かいに店を見つけたものの「コースを横断できない。知人はヨコレートを必死で探し回つたようで(笑)。それ以降、知人の奥さんは大阪マラソンに応援に行くのを毎回楽しみにしているのことです。

それって不思議な感じですよね。自分の知り合いでもないランナーの方だけど、ヨコレートをもひつてくれたら嬉しいといふ気持ちになる。単純に「頑張れー」と声を掛けただけでも、"おー、"と言つてもういたら、自分の応援する気持ちが届いた



林昌之 はやしまさゆき

大阪体育大学卒業後、1983年府立高校、2006年全国高校総体事務局競技担当。  
2008年府立高校教頭等を経て2015年(第5回大会)より大阪マラソン組織委員会事務局で競技運営担当。現職の他に、2001年より全国障がい者大会の大阪府選手団水泳コーチ、2017年より監督。